
第 7 回 米代川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

日時：平成 26 年 11 月 17 日（月） 16:00～17:00

場所：能代河川国道事務所 大会議室

1. 懇談会資料

資料-1 第 7 回米代川水系河川整備学識者懇談会 次第 委員名簿 会場配置図 規約

資料-2 米代川水系河川整備計画〔大臣管理区間〕～各種施策・事業の進捗状況～

2. 主催者・座長あいさつ

○河川部長

東北地方整備局河川部長の鈴木でございます。

本日は、座長、先生をはじめ、委員の方々、本当にお忙しい中、第 7 回の米代川水系河川整備学識者懇談会、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて、米代川ですが、現在は河川の掘削工事、あるいは堤防補強工事を進めています。河川改修は、長い時間と費用がかかることを改めて実感したかと思います。移動の車中では、昭和 47 年の洪水、平成 19 年の大洪水を紹介しましたが、東北地方全体でも平成 20 年代、特に平成 23、24、25 年とあちこちで大雨が発生しています。

気象予報士の方々は東北の雨の降り方が変わってきたという話しも最近もされます。今年も特にこの米代川流域で大雨警報、洪水警報が頻発しました。うちの整備局内でも秋田県出身が何人かいますが、昔は秋田県で雨が降るといって鳥海山の辺が多かったと、最近では米代川の方にいつも前線が停滞しているのが多くなっている。これから雨の降り方も変わっていくようなので、米代川の治水はこれから益々気をつけていく必要があると感じている。

米代川整備計画は、平成 22 年 3 月の変更以降、下流部の河道掘削などの整備を順次進めております。また、昨年の洪水の対応も上流部でも重点的に着手していく予定です。

本日は、これまで実施した各種施策の進捗状況を米代川水系河川整備計画の点検と称しましてご報告するものです。委員の皆様から様々なご意見をいただきながら、そしてより効率的かつ効果的な事業進捗に活かしていきたいと思っておりますので、今日はよろしく願いいたします。

○座長

実は私自身、この米代川流域の長坂というところで生まれ育ちました。

高校時代までそこで生活しておりまして、米代川ではさんざん魚釣りをしたり、水遊びをしたり、船下りをしたり、昔の思い出は全部、米代川の中にあります。

今日は二ツ井から米代川の 3 箇所現場を見せてもらいましたが、自然の驚異も莫大なエネルギーを持っておりますけれども、国交省のエネルギーも凄いなというのが実感であります。

以上をもちまして私のご挨拶に代えさせていただきます。

3. 議事（米代川河川整備計画の点検について、意見交換）

○事務局説明

能代河川国道事務所で調査第一課長をしております湯川です。よろしくお願いいたします。
それでは、米代川水系河川整備計画の点検について説明させていただきます。

○座長

次に議事の2として意見交換に入りたいと思います。事務局からの説明に対する質問を含めて各委員からご意見をお願いいたしたいと思います。

○委員

12ページの右上に12、河道掘削のイメージがでておりますが、河川の下を掘削するイメージとなっており、普段のイメージとは、違う感じがします。けれども、どのように考えたらいいのでしょうか。

○事務局

断面的に見て、水の中を掘削するようなイメージとなっておりますが、出水時に水が流れた場合、河道掘削することによって、赤の部分の面積が増えるということで、河道内の流下がスムーズにいくという意味です。掘削時の水位は、平水位としておりますので、この河道掘削部分の底面の部分の高さくらいで掘削するような形となります。あくまで出水時のイメージとして考えていただければと思います。

○委員

その場合であれば、やはりきっちりと平水位がどの点なのかって書いといていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員

8ページの図で、最後の方で平成27年度から平成25年8月洪水を契機に上流区間の大館の整備を進めていくこととしていますが、下流側からの整備は分かりますが、その後、上流側に移行することで、中流部の治水安全度は、どのように考えているのでしょうか。上流側の整備を先行することで、中流部の治水安全度が下がるのではないのでしょうか。

○事務局

大館市では河道掘削と一部堤防輪中堤を整備します。長坂右岸地区、外川原地区のオレンジ色で黒文字の箇所については流下能力の向上を図ることとしております。若干ですが、その下流側の鷹巣地区で水位上昇が見られますが、流下能力的には今現在も十分流下能力があるところで、堤防を補強すれば十分安全度は問題ないという判断で整備を進めております。

○委員

ありがとうございます。

○委員

この懇談会の位置づけを教えてください。

例えば 14 ページでは、維持管理に関する PDCA サイクルが書かれていますが、この会議はこれの中で表せるものなのか、ここでの意見がこういった形で取り入れられていくのかを教えてください。

○事務局

河川整備計画は、流域の社会情勢の変化や地域の意向を適切に反映できるように適宜その内容について点検を行って、必要に応じて変更していくということで位置づけております。整備計画の点検としては、今回行っております河川整備学識者懇談会等の学識者等から構成されておまして、第三者委員会で各種施策・事業の進捗について、今回のように説明させて頂きまして、皆さんからのご意見を聞くものとしております。それで、点検結果については、必要であれば河川整備計画の変更といったものに、速やかに変更手続きを行っていくというようなことで考えております。

○河川部長

米代川の整備計画は、平成 17 年に一番最初に作成して、平成 22 年に 1 回変更しています。整備計画は変更する、しないに関わらず 1 年に 1 回点検します。今日の会議はそういう趣旨です。整備計画というのは、河川の改修事業、環境整備、維持管理、あるいは地域の皆さんと何をやるかが記載されていますが、今日の説明資料はそれらを表層的に説明し、ここ数年の整備進捗や今年・去年大雨を踏まえた事業方針等を委員方からご意見を伺うもの。河川維持管理計画というのは維持管理だけに焦点をあてたもので、我々が普段河川の巡視をする、点検をするっていうときに河川維持管理計画を見ながら、例えばこの堤防を重点的に監視するとか、必要に応じて補強するといった計画内容を記載したもので、それが資料にあると PDCA で実施することが記載されている。

○委員

この会議での意見が今後反映されるのであれば、後でどのように反映されたのか分かるような形ではお見せ頂けるものでしょうか。

○河川部長

河川整備計画は、記録的な大雨や甚大な被害が発生して流出計算等の計画の根底から見直すくらいでないと変更はしませんが、もし委員方のご意見で、例えば改修線形の指摘等、軽微な場合は、整備計画の変更とまではならないが、その都度、委員方のご意見を現場に反映させます。その結果を次の機会（学識者懇談会）で委員の皆さんに報告するといった対応になります。

○委員

はい。ありがとうございます。

○委員

12 ページで、二ツ井の右岸地区の写真がありますが、平成 19 年から河道掘削されているが、平成 25 年の方が、砂州が発達しているように見える。银杏橋の上流側では堆積しているような状況は見られないのでしょうか。

○事務局

写真を撮ったときの水位の状況にもあると思います。定期横断測量などで掘削箇所の点検なども実施していますが、砂州が極端に発達しているという認識はしておりません。

○委員

発達していると河道断面が逆に小さくなってしまいますので、流速がさらに速くなって、それこそ左岸側が削られてしまうことが心配だったので発達してなければ問題ないと思います。

○委員

関連したことですが、中州はとればいいのか、直線になってゆっくりと水が流れれば一番いいということになれば、逆に魚にとっては一番困るわけです。

そういった意味で、19 ページをどのように評価するのか、19 ページの下に中州の発達が顕著と書いていますが、例えば 27.6km ぐらいのワンドが非常にいいなと僕は考えるわけです。例えば、カワヤツメの幼体アンモシーテスなんかがいるのは、このような流れが緩やかなところで根がちょっとあって。先ほど委員方から質問されていた部分なんかも、やはり、トレードオフといいますか、一方がすれば一方がよくないということで、結論からいうと僕としては、できるだけ多様な部分を残すという形でやっていく、あるいは評価するというふうなことが、すごく重要ではないかと、これ以上話をしてくると河道掘削はやればいいのかというふうにどんどん進んでいくのが不安だったので。以上です。

○委員

関連しまして、例えば多自然型川づくりだと典型的に、本編に掲載しているかもしれませんが、断面図同じくして、たぶん中州みたいな形にして、中に護岸を入れてということも出ていとも思いますので、そういった意味ではいろんな面を考慮しながら、もうちょっと生物のことも考えた上での河川整備は必要ではないかと考えています。

それともう一点、水質の話ですが、16 ページを見てみますと亜鉛の濃度で、ピークみたいなものが毎年出ているようにも見えます。これは毎月のデータをそのままプロットしているように見えますが、その原因は分かりますでしょうか。

それと関連してですが、去年の 8 月の豪雨の時に大館市の廃鉱山の排水が処理できなくなっています。その後、米代川の水質に与えた影響や、水質の面での対策を分かる範囲で結構ですのでコメント頂ければと思います。

○事務局

亜鉛のピークの時期につきましては、ちょっと今手元に資料がございませんので、あらためましてご報告させていただきます。

鉱山汚水の洪水時に流出した件につきましては、その後の水質を見る限りでは、特別高い値と出ておりませんで、たぶん流れてしまったと考えられます。

○委員

その後、どのくらいで復旧、元の状態で正常に処理できるようになったのかお聞かせください。

○事務局

流出元、流出源についてもすぐに修理が終わっていました。

○委員

PDCA やリエゾンなど、なんとなく国交省が頑張っているのは分かりますが、なんか横文字が出てきたり、国でそういうことをやっているのであれば、地方版として年配の方にも優しい言い方があるのではないのでしょうか。

○河川部長

18 ページのカタカナ、リエゾンというのは、これは維持管理とは全然違いますが、単に我々が最近言い出しているだけです。例えば東日本大震災や最近はいろんな洪水でも地方自治体、市町村に対して、連絡要員として仕事をするというのがリエゾンです。

これは、市役所や町役場で人手が足りないときに、国交省の職員が直接行って、今の状況を把握、連絡する要員として行ってもらい、例えばポンプ車や照明車、携帯電話が必要だとなれば、すぐに応援要請を連絡するのがリエゾンです。

特に維持管理計画とか河川整備計画ではなくて、18 ページは災害時にこういうことを実施していますという紹介だけです。

○委員

先ほど河川部長さんが言われたとおり、例えばポンプをどうするかだとか、その後の対応について国、県の振興局の方もいらっしゃっています。そういう中で災害対策本部を設けて、いろんな協議をしながら進めています。

このことは、地元の新聞にもリエゾンの派遣について載ったと思いますが、本当に私どもはの方がいらっしゃることで情報の伝達とか協議とかがうまくいっていると思っています。

○事務局（河川環境課堺補佐）

環境の話だけ。先ほど多自然川づくりという話とか、環境配慮という話がありました。

まさしくご指摘のとおりで、治水事業というのは大事ですが、環境も大目的というか、治水を進めるにあたっては環境への影響をしっかりと把握しながら、現場でも環境情報管理図や水辺の国勢調査を基にしっかり見ながら工事を進めていくということでやっております。

実際に現場へ入るときは、専門の方々にご指導いただいたりする場面等もございますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

○座長

最後締めくくっていただきまして、ありがとうございます。

では、マイクを事務局に渡します。

4. 閉会（あいさつ）

○事務所長

本日は座長はじめまして、委員の先生の皆様、現場視察も含めまして、貴重なご意見を承りまして、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様方には、本懇談会以外のいろいろな場面でも広くご指導をいただいておりますこと、重ねてお礼申し上げます。

本懇談会、平成 20 年に立ち上げをさせていただいて、今回で 7 回目の開催となりますが、これまで河川整備、河川改修あるいは環境整備の事業再評価をはじめ、22 年には 19 年の洪水を契機とした整備計画の変更の審議をいただいております。

本日は特に河道掘削の方でいろいろなまとめ的なご意見をいただいたところでございます。今後、我々の工事あるいは事業計画で工夫できる部分、検討できる部分、しっかり考えてまいりたいと思っております。また、今日も説明の中で出てきましたが、昨今米代川流域でも雨の降り方変わってきております。昨年 8 月にも大館市管内で大きな被害を被災したところでございます。河川管理者といたしまして、年々変化する気象条件、社会条件を見据えて、こういったこれからも先生のご指導賜りながら、よりよい安全で安心な河川整備、管理努めてまいりたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、長い時間どうもありがとうございました。